

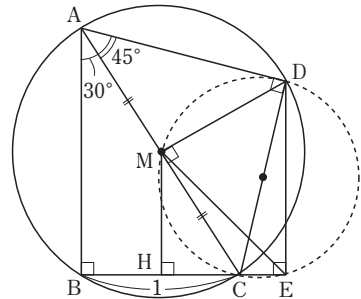
1. (1) π (2) 45°

解説 (1) $\angle ABC = \angle ADC = 90^\circ$ だから、線分 AC は 4 点 A,

B, C, D を通る円の直径である。また、 $\angle BAC = 30^\circ$ より、 $\triangle ABC$ は 3 辺の比が $1 : 2 : \sqrt{3}$ の直角三角形だから、 $AC = 2BC = 2$

よって、円の半径は 1 だから、その面積は、 $\pi \times 1^2 = \pi$

(2) $\triangle ACD$ は直角二等辺三角形であり、点 M は斜辺の中点だから、2 点 D, M を結ぶと、 $DM \perp AC$ となる。よって、 $\angle DMC = \angle DEC = 90^\circ$ となり、4 点 D, M, C, E は、線分 DC を直径とする円の周上にある。したがって、 $\angle MED, \angle MCD$ はともに \widehat{MD} に対する円周角だから、 $\angle MED = \angle MCD = 45^\circ$



2. (1) 12° (2) 36° (3) $1 : 10$

解説 (1) \widehat{AC} に対する中心角は、 \widehat{AC} の長さが円周の長さ

の $\frac{1}{15}$ であることから、 $\angle AOC = 360^\circ \times \frac{1}{15} = 24^\circ$ よって、 \widehat{AC}

の中心角と円周角の関係より、 $\angle ADC = \frac{1}{2} \angle AOC = \frac{1}{2} \times 24^\circ =$

12°

(2) 図の $\triangle APD$ で内角と外角の関係より、 $\angle PAD = \angle APC - \angle ADP$ であるから、 $\angle BAD = \angle PAD = 30^\circ - 12^\circ = 18^\circ$ よって、 $\angle BOD = 2\angle BAD = 2 \times 18^\circ = 36^\circ$

(3) 弧の長さの比は中心角の大きさの比に等しい。よって、(2)より \widehat{BD} に対する中心角が 36° であるから、求める長さの比は、 $\widehat{BD} : [\text{円周}] = 36^\circ : 360^\circ = 1 : 10$

